

対馬市における韓国との国際交流および地域活性化について：長崎県対馬市の「対馬アリラン祭」を事例として

申, 英根
九州大学大学院人文科学研究院歴史学部門

<https://doi.org/10.15017/1468024>

出版情報：史淵. 151, pp.137-158, 2014-03-14. 九州大学大学院人文科学研究院
バージョン：
権利関係：



九州大学大学院人文科学研究院
『史淵』第151輯抜刷
2014年3月発行

対馬市における韓国との国際交流および
地域活性化について
——長崎県対馬市の「対馬アリラン祭」を事例として——

申 英 根

対馬市における韓国との国際交流および 地域活性化について

—長崎県対馬市の「対馬アリラン祭」を事例として—

申 英 根

I はじめに

本稿は、長崎県対馬市の「厳原港祭り（対馬アリラン祭）」（以下、アリラン祭と略す）を事例に、地元の商工団体関係者を中心に運営されていた祭りが、国際交流を活用した市による地域活性化政策に組み込まれることによって、どのように変化してきたのか、またそれは地域社会や韓国人観光客にどのように受け止められているかを、祭りの主催団体や市当局、地域住民、韓国人観光客の意見や活動に着目して考察するものである。

1980年代以降、産業構造の転換や地方分権化の進展に伴って、世界の各地で地方自治体による「国際化」や「国際交流」が活発化してきた。そのなかで海外からの観光客誘致による地域活性化を目的として、博物館などの文化施設の建設と同時に、新たな祭りやイベントが数多く創出されてきた。その一例として、かつて石炭産業や造船業によって栄えていたイギリスのグラスゴーは、1970年代以降基幹産業の衰退とともに、産業公害や「スラム・犯罪都市」といった否定的な都市イメージを付与されるようになった。これに対し市当局はガーデンフェスティバルの開催や新しい博物館、劇場、コンサートホールの建設による各種文化イベントの戦略を通じて、1990年にヨーロッパの「文化都市」に指定され、文化観光都市としてのイメージを創出することに成功した（Mitchell, 2000）。

日本でも「ビジット・ジャパン・キャンペーン」構想以降、観光化と国際化

が国家の政策として重視されるようになっているが、九州地域ではアジア、特に「韓国」を意識した祭りやイベントが多く開催され、国際交流が進められている点にひとつの特徴がある（申、2009）。

こうした動きのなかで、アリラン祭は韓国人観光客を意識して、比較的早くから祭りの名称に「アリラン」を使用していることや、プログラムに韓国人が公式に参加していることなどから、先駆的な事例と言えるだろう。

これまで祭りを利用した地域活性化とそれによる文化の変容に関する先行研究として、Waterman (1997; 1998) はイスラエルの音楽祭「Kfar Blum Festival」を事例に、市当局が祭りを財政的に支援しながら、公演場数の増加や祭りの期間延長、大衆向けのプログラムの企画などを要求し、元々芸術志向であった祭りが人集めのための祭りに変容したと語った。また廖・王 (2004) は長崎県長崎市で行われている「長崎ランタン・フェスティバル」を事例に、中華街の華僑によって始められた小さな春節祭が、市の観光政策の一環として利用されることによって、祭りの内容や意味がどのように変容したかを明らかにした。他に、祭りをめぐる諸主体の関わりから安藤 (2002) は盛岡市の六つの祭礼群に関する研究で、祭りの観光化を図る行政の要請に対して、祭りの担い手たちが行政と対立しながらも妥協点を見出し、どのようにして祭りを存続させていったかを明らかにした。

本稿では以上の祭りの利用と変容、そしてそれをめぐる地域住民と行政との葛藤や妥協などに関する先行研究を踏まえ、アリラン祭を事例に次の二点を論じる。第一に、アリラン祭が地域活性化政策の一環として位置づけられていく過程を、主催団体や行政、地域住民の活動から明らかにする。第二に、韓国人観光客によるアリラン祭に対する評価を検討して、祭りが地域活性化に果たしている役割を分析する。

II 対馬市の現況と歴史

1) 対馬市の現況

対馬市は長崎県に属する島で、九州本土から132kmも離れている一方、韓

国の釜山市とは49.5kmの距離にある（図1）。島の南北の長さがあることを考えると、対馬市の長さよりも対馬と釜山間の距離の方がはるかに短いことになる（イ、2005）。1999年7月から「株大亞（デア）高速海運」⁽¹⁾による高速船の運航が始まり、釜山から厳原まで2時間10分、比田勝まで1時間10分に短縮されたことで、対馬と釜山は実質的に「一日生活圏」を形成している（対馬市、株大亞高速海運）⁽²⁾。

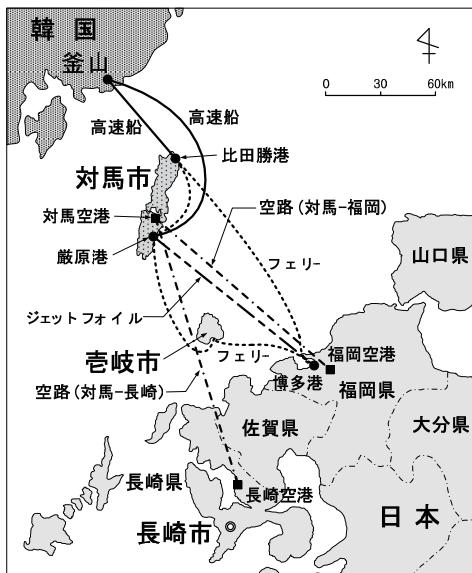


図1 対馬市の位置

表1 対馬市的人口推移

区分	年	1960	1970	1980	1990	1995	2000	2005	2010
総数(人)		69,556	58,672	50,810	46,064	43,513	41,230	38,481	34,407
0-14歳		27,058	18,916	12,845	10,050	8,352	6,834	5,827	4,837
15-64歳 (15-29歳(a))		38,670 (15,823)	35,051 (11,803)	32,528 (9,819)	29,264 (6,637)	27,145 (5,969)	25,001 (5,665)	22,573 (4,804)	19,435 (3,356)
65歳以上(b)		3,828	4,705	5,437	6,735	8,015	9,395	10,081	10,135
若年者率(%) (a)/総数		22.7	20.1	19.3	14.4	13.7	13.7	12.4	9.7
高齢者率(%) (b)/総数		5.5	8.0	10.7	14.6	18.4	22.8	26.1	29.4

（対馬市「人口－国勢調査」により著者作成）

対馬市の人口は1960年をピークに減少が続いている。高度経済成長期に産業構造と社会構造の転換によって、特に若年層が本土の都市部へ流出した。低成長期になってもこの傾向は変わらず、2010年には34,407人にまで減少している（表1）。1960年代までは「東方亜鉛株式会社対馬鉱業所」による亜鉛炭の採掘のおかげで、域外から多くの移住者があったが、1973年に競争力の低

下とカドミウム公害により同所は閉鎖された。

また、1960年代以降の木材およびパルプ加工業の衰退も、人口減少に拍車をかけた（イ、2005）。1970年に制定された「過疎地域対策緊急措置法」⁽³⁾により、対馬市の旧6町⁽⁴⁾すべてが過疎地域の指定を受けた。

対馬市の産業は、第1次産業の割合が21.2%（2005年）で、長崎県（9.1%）、全国（5.1%）と比較して高く、漁業は第1次産業の80.4%を占める島の基幹産業で、なかでもイカ釣漁業は長崎県全体の51.2%の水揚量を占めている。しかし、近年漁獲量は減少傾向で、漁業従事者も減少の一途を辿っており、特に就業者の高齢化と若年層の著しい減少が問題となっている（対馬観光物産協会、2008）。

林業については、広大な森林資源に恵まれていて、県全体の19.9%の生産額を占めており、第1次産業のなかでは漁業に次ぐ位置にある。しかし、近年では高齢化と後継者不足による就業者数の減少および木材価格の低迷など、林業を取り巻く状況は厳しい（対馬観光物産協会、2008）。

第2次および第3次産業の割合はそれぞれ16.4%と62.4%で長崎県全体平均を下回っている。第2次産業では、建設業の占める割合が高く、2004年の事業所数は316、従業員数は2,303人となっている。しかしこれは離島振興法などによる公共事業に依存する部分が大きく、この他の食料品、窯業・土石製品、木材・木製品などは、いずれも零細である（対馬観光物産協会、2008）。事業所の多くは厳原町や美津島町など島の南部に立地している。第3次産業は、主に飲食料品関係の小売業の売上げが高く、商店は第2次産業と同じく厳原町と美津島町に集積している。

厳原町は合併以前から対馬の商工業の中心地であり、2002年の年間商業販売額は市の48.5%を占めている（対馬観光物産協会、2008）。しかし、1990年代半ば以降、隣接する旧美津島町に広い駐車場を完備したショッピングセンターが増加したことで、消費者が流出するようになった。このため空洞化の進む中心市街地の活性化を目的として、2003年4月に今屋敷地区市街地再開発組合が設立され、図書館、イベントホール、公民館などの公共施設と商業施設からなる「対馬市交流センター」が建設された⁽⁵⁾。ただし、厳原町でも人口は

20,897人（1970年）から12,684人（2010年）へと減少しており、地域活性化は重要な課題であり続けている。

2) 合併までの歩みと合併後の変化

小渕内閣から始まった地方分権の動きは、小泉政権に入るとさらに「地方にできることは地方に」という理念の下に、国庫補助負担金の削減や地方交付税の圧縮など、国から地方への税源移譲を進めた。そしてその実現のため、合併特例債⁽⁶⁾の措置による大々的な市町村合併が全国的に進められてきた。対馬の場合、1999年6月に対馬6町、すなわち厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町の町長、議長、県の関係機関長などで構成された「対馬島地方分権・市町村合併等調査研究会」が設置され、合併効果の検討や合併に対する島民の意識調査などが行われた。島民意識調査によると、組み合わせはいくつかあるものの、市町村合併は必要であると回答した人が約73%に上った。このアンケート調査の結果に基づき、市町村を取り巻く厳しい社会状況のなかで合併は避けられないとの共通認識の下で、2000年8月に「対馬6町合併協議会」が設置された。それ以来、2002年4月までに都合20回の協議会が開催され、43の合併協定項目すべてが確認されたのを受け、同年6月に合併協定調印式が行われた。そして2年間の準備期間を経て、2004年3月に旧6町が合併して対馬市の一市体制となった（対馬市役所総務企画部秘書課、2004）。

表2 対馬市における主な官庁関連施設の所在地

町名	行政機関
厳原町	市役所、消防本部、監査、選挙管理委員会
豊玉町	福祉事務所、議会
上県町	農業委員会
上対馬町	教育委員会

（対馬市役所総務企画部秘書課（2004）から引用）

これにより旧6町にあったそれぞれの行政機関は、表2のように再編された。

市役所を始め行政の重要な機関は厳原町に置かれ、かつての中心地としての機能が引き継がれている（対馬市役所総務企画部秘書課、2004）。

対馬市の誕生に伴って、これまでの国際交流事業に関しては、「新市に引き継ぐものとし、合併後速やかに統合できるよう努めるものとする」とされた（対馬市役所総務企画部秘書課、2004）。しかし、合併してまだ日が浅いこともあり、アリラン祭、「対馬ちんぐ音楽祭」⁽⁷⁾、「国境マラソンIN対馬」といった対馬市の3大祭りの運営状況をみると、アリラン祭は厳原町、対馬ちんぐ音楽祭は美津島町、国境マラソンIN対馬は上対馬町がそれぞれ合併前の運営体制を維持しており、ひとつの市としての相互参加や協力関係はほとんど進んでいないのが現状である⁽⁸⁾。

3) 韓国との関わりからみた対馬市の歴史

対馬市は、朝鮮半島に近いという地理的条件によって、大陸の文化を日本に伝える窓口であった。また、朝鮮半島との間では古くから交易などの交流が盛んに行われ（対馬観光物産協会、2008）、対馬市には朝鮮半島と関わりのある遺跡が数多く残っている（表3）。

このほかにも、上対馬町には1997年に建設された「韓国展望所」があり、晴天の日には韓国の釜山市が眺められる。この建物は韓国風のイメージを強調するため、すべて韓国産の材料を使用して、八角形になっている（イ、2005）。

このように対馬市には多数の朝鮮半島関連遺跡が残っているが、このうち比較的近年になって建立された朴提上殉国碑、対馬海峡遭難者追悼碑、朝鮮譯官使碑、崔益鉉殉国碑、徳惠翁主と宗武志の結婚記念碑、朝鮮通信使碑は、韓日の学者や行政関係者、地域住民で構成された「建立実行委員会」⁽⁹⁾によって建てられたものである。近年こうした記念碑は「対馬釜山事務所」⁽¹⁰⁾によって、韓国人観光客向けの新たな観光地として積極的に宣伝されるようになっている。

表3 対馬市にある朝鮮半島関連遺跡

遺 跡	内 容
梅林寺	538年、百濟の聖王によって日本に仏像と経文が伝えられた所であり、1436年には朝鮮に渡航する船舶に対して、文印(渡航証明)の事務を主管した所もある。
金田城跡	667年、百濟の流民が羅・唐連合軍の侵攻に備えて築いた朝鮮式山城である。
朴提上殉国碑	朴提上は新羅の外交家で、5世紀初、高句麗の広開土大王が南進していくと、新羅はこれを牽制するために日本に軍事援助を要請して、その代わりに奈勿王の三番目の息子である未斯欣を人質として日本に送った。朴提上は未斯欣を救い出すために日本に派遣され、未斯欣の救出には成功したが、自分は捕まって処刑された。1988年に建立。
対馬海峡遭難者追悼碑	対馬海峡で遭難に遭った朝鮮人漂流民たちの魂を慰めるために1992年11月に建立。
朝鮮譯官使碑	1703年、対馬藩の第21代藩主である宗義眞に対する弔文と、新しい藩主である宗義方を祝うために対馬に派遣された朝鮮譯官の108人が、海難事故によって全員死亡した。1991年に建立。
修善寺と崔益鉉殉国碑	崔益鉉は韓日協商条約に反対して逮捕され、対馬に流配された後殉國した。1986年に建立。
徳惠翁主と宗武志の結婚記念碑	植民地時代、高宗の娘である徳惠翁主が対馬島主宗武志と結婚したことを記念する碑で1931年に建てられたが、保存状態が悪く、2001年11月に復元された。
厳原対馬歴史民俗資料館	1977年に建てられたこの資料館には、朝鮮通信使一行400～500人を描いた長さ16.53mの絵巻が保管されているほか、庭には1992年2月に建立された朝鮮通信使碑がある。
朝鮮通信使客館跡	国書伝達式が行われた国分寺には通信使のための客館や門が建てられた。明治時代の火事で焼失し、現在は門だけが厳原港に残っている。

(長崎新聞社 (1984)、イ (2005)、ユ (2008) および現地調査により著者作成)

III アリラン祭の誕生とその変遷

本章では、アリラン祭が対馬市の地域活性化政策の一環として位置づけられるようになった歴史的経緯を明らかにする（表4）。

表4 アリラン祭の沿革

年	内 容
1964	「ふるさと港祭り」の名称で開始
1980	「朝鮮通信使行列振興会」発足と通信使行列の開始
1985	「厳原港祭り」と名称を変更
1988	「対馬アリラン祭」の名称が登場。これ以降、主に「対馬アリラン祭」をメインタイトルに使用
1988	長崎県と厳原町(2004年合併後は対馬市)が補助金支給開始
1991	韓国人大学生のホームステイの開始
1993	アリラン祭に合わせたホームステイの実施
1994	国書交換式の開始
1997	長崎県から「地域振興に貢献した功績」で表彰
1998	国土庁から「地域づくり表彰」受賞
1999	長崎県から「地域振興に貢献した功績」で表彰
2003	「対馬釜山事務所」の設置 総務省から「世界に開かれた町づくり賞」受賞
2007～2012	「厳原港祭り」をメインタイトルに、「対馬アリラン祭」をサブタイトルに変更

(厳原町 (2004)、対馬市役所総務課と商工会への聞き取り調査により著者作成)

アリラン祭は、厳原町で毎年8月の第一土・日に開催される、対馬市最大の祭りである。その起源は、商工会が1964年に、当時の厳原町の商工業振興を目的として開催した「ふるさと港祭り」にまでさかのぼる。当時の運営状況は、主催団体である商工会が祭りの全般的な運営と経費を負担して、プログラムに関わる実務は商工会所属の「厳原町商工会青年部（以下、青年部と略す）」の会員⁽¹¹⁾が担当した⁽¹²⁾。当初の祭りは、武士の衣装などを纏った地元住民による仮装行列が中心であったが、次第に舞台行事が加わるなど内容も充実していった⁽¹³⁾。現在舞台行事は、地元の子供から大人までが参加して楽しめるプログラムが2日間にわたって組まれており、後述する朝鮮通信使行列⁽¹⁴⁾など新たな行事が加わっているが、その内容に大きな変化はみられない⁽¹⁵⁾。

1970年代までは、商工会の企画に地元住民が一部参加する形式で祭りが行われていたが、人口減少などによって以前のような仮装行列の実施が次第に困難になった。そこで厳原町役場の関係者は、商店主であった故庄野晃三朗氏が1971年から10人程度の女性店員を韓服姿で仮装行列に参加させていたことからアイデアを得て、庄野氏に朝鮮通信使行列の担当を要請した。庄野氏は、1979年に在日韓国人の歴史学者辛基秀氏が製作したドキュメント・フィルム「江戸時代の通信使」が、1980年に厳原の歴史資料館で上映されたことをきっかけとして、辛氏から朝鮮通信使の規模やその歴史的意味、そして衣装などについて教えを受ける機会をもつことができたことから、同氏らが中心となって1980年に「朝鮮通信使行列振興会」（以下、振興会と略す）が結成されることになった（ジョン、2006；嶋村初吉編著、2004）。この際、一部の地元住民や地域内外の右翼団体から、なぜ韓国の真似をするのかという不満や抗議の声が振興会に寄せられたこともあるが、大きな問題に発展しなかったという。現在朝鮮通信使行列には、学生（対馬高等学校と厳原中学校）や民間企業（西日本シティ銀行、十八銀行、親和銀行、九州電力）、公務員（陸上自衛隊、海上自衛隊、対馬市役所）など350人余の地元関係者が参加するようになっており、祭りの目玉行列に成長している⁽¹⁶⁾。

こうして祭りは、1980年以降振興会による朝鮮通信使行列と商工会による舞台行事から構成されるようになり、島民にとどまらず主に国内の観光客の誘致とそれによる地域活性化を目的とするようになっていた。

1985年商工会は、地域の名称を明確にするために、「ふるさと港祭り」の名称を「厳原港祭り」に変更した。さらに1988年の「対馬国定公園指定20周年」の記念行事の開催や、1989年の韓国の海外旅行自由化という国外情勢を控え、商工会と厳原町の内部では韓国人観光客を誘致するために強いインパクトを与える祭りにしてはどうかという意見が出されるようになった。その結果、1988年から「アリラン祭」という新たなタイトルを追加し、これをメインタイトルとして使用することに決定した。こうして地元住民向けの祭りは韓国人観光客を狙った観光振興の目的に利用されるようになったのである。

この時にも一部から反対・抗議の声が上がったが大きな障壁とはならず⁽¹⁷⁾、アリラン祭を活かした地域活性化の動きは、国から「地域づくり表彰」や「世界に開かれた町づくり賞」を、県から「地域振興に貢献した功績」が認められ受賞するなど、高い評価を受けたこと也有って、合併以降も対馬市の観光政策に大きな影響を与えるようになった。対馬市の総務企画部長であった内田洋氏（2004年当時）は次のように語っている。

「50km離れた釜山には300～400万人が暮らしているが、150km離れた福岡の人口は140万人に過ぎない。目の前に良い市場があるのでどうして韓国と交流しないのか。」⁽¹⁸⁾

しかし、2005年2月22日に島根県議会が「竹島の日」条例を制定すると、それに対抗して同年3月18日に韓国の慶尚南道馬山（マサン）市議会が「対馬の日」条例を制定した。これが発端になって、日本全土で活動している右翼100人ほどが対馬市役所を訪れ、「アリラン祭」のような祭りが馬山市の条例制定を促した原因であると強く抗議し、アリラン祭の開催に反対する署名活動を行った。ただし、2005年7月まで集められた署名数は100筆ほどで、このうち地元住民の占める割合は2%にも満たなかった。これに対して商工会は役員会⁽¹⁹⁾を開き協議の結果、アリラン祭は、日韓の国際交流と、それを通した韓国人観光客の増加による地域活性化への貢献を認められて、1998年に国土庁、1997年と1999年に長崎県、2003年には総務省から賞を受けたこと、また日韓交流という名目で県と市から補助金⁽²⁰⁾を受けていることなどを理由にして、中止あるいは名称の変更の必要性はないという結論に達した。

しかし、署名運動後もアリラン祭への反対の声は続き、右翼団体や一部の地域住民の間で「アリラン祭というタイトルは地元住民の祭りと感じられないのでは、アリランの名称を無くそう」⁽²¹⁾という意見が相次いだ。商工会は再び役員会を開き、地元住民を中心とした「厳原港祭り」であることを強調するため、2007年から「アリラン祭」をサブタイトルにすることに決めた。この変更の狙

いは、アリラン祭に反対する声に何らかの形で誠意をみせることで、何とか祭りを存続させることにあったという。商工会の内部では、竹島問題によって対馬に対する韓国社会の関心が高まり、これをきっかけにアリラン祭がもっと韓国で認知される機会になればという期待もあり、ようやく認知度の高まったアリラン祭への関心が低下してほしくないという考えが強かったようである⁽²²⁾。商工会青年部の会長は、「アリラン祭によってもっと多くの韓国人観光客が対馬を訪問し、対馬の地域活性化に役立てばと思います」⁽²³⁾と語っており、こうした認識は商工業関係者を中心に共有されているように思われる。

また振興会の努力もアリラン祭の継続に大きな力となっている。行列準備のために、大体3月に釜山市を訪問して、行政関係者には国書交換⁽²⁴⁾の役を頼み、ペクヤン高等学校を訪問しては宮中吹打隊を、専門舞踊団には行列と舞台公演での参加を依頼し、7月にもう一回釜山市を訪問して、前述した各関連団体に朝鮮通信使行列への参加を再確認する⁽²⁵⁾(対馬釜山事務所)。そして8月に祭りが終了すると、9月の反省会を経て12月には翌年の行列について協議を始めるなど、その活動はほぼ年間を通して行われている。3代目会長の山本博己氏は、「朝鮮通信使行列によって韓国との国際交流が進み、それが地域の活性化に繋がれば何よりです」⁽²⁶⁾と述べており、地域活性化への強い意欲がこの活動を支えていることがわかる。

以上のように、朝鮮通信使行列の再現やアリラン祭という名称に対して、少数ではあるが当初から地元住民の反対の声があった。これに対して行政と商工会関係者は、地元住民中心の行事内容を維持しながらアリラン祭が地域活性化に役立つことを強調し、さらに祭りのメインタイトルを変更するなど、妥協を図りながら祭りを「アリラン祭」として維持し、韓国人をターゲットにした観光政策として利用していることが明らかとなった。こうした妥協および地域住民の感情を配慮した関係者の地道な努力によって、朝鮮通信使行列の役割は多くの地域住民に受け入れられ、地域にある程度定着するようになったのではないかと考えられる。

IV 対馬市の国際交流と地域活性化

本章では、対馬市による韓国での宣伝や国際交流の活動について明らかにする。対馬市は2003年4月から釜山市に「対馬釜山事務所」を設けており、主な業務として、①アリラン祭などを利用した対馬市の宣伝活動、②韓国との国際交流の促進、③対馬市の観光関連情報提供、などを行ってきている。韓国社会におけるこれまでの宣伝活動としては、2004年から毎年9月に釜山市で開催される「釜山国際観光展」に参加して対馬市の宣伝を行ってきており、2005年11月には釜山市にとどまらずソウル市に本社を置いている旅行会社を対象に、「対馬市観光説明会」を開催した。このほか、2007年にはソウル市内のバスに宣伝広報と市内の旅行会社を訪問、2008年3月には釜山市で対馬観光だけを専門に取り扱う旅行会社を対象に宣伝活動を行った。さらに2009年からは年に2回、大体6月に釜山市で、10月にソウル市で行われる「九州観光推進機構」⁽²⁷⁾主催の観光説明会にも参加してきており、2004年からの「釜山国際観光展」を含め、少なくとも年間3回に及ぶ対馬市観光説明会を行うなど、その宣伝活動は拡大してきている⁽²⁸⁾。

次に、アリラン祭と関連した国際交流支援活動は、表5のとおりである。主に朝鮮通信使行列と関連した国際交流が多く、こうした交流は祭りの期間だけに止まっていない。朝鮮通信使関連セミナーや書道大会を開催するなど、朝鮮通信使をテーマとして主に姉妹都市である釜山市と盛んに国際交流を行っている。

対馬釜山事務所は、オープン当時から朝鮮通信使関連業務だけで、年間5回から12回に及ぶ交流活動を支援してきており⁽²⁹⁾、アリラン祭での朝鮮通信使行列を対馬市の観光ピーアールの前面に押し出して、韓国人観光客をターゲットにした宣伝活動を行ってきている。

現在、対馬釜山事務所は釜山市街地の中心部、龍頭山公園の一帯にあたる大廳洞に構えているが、ここはかつて対馬藩から派遣された対馬藩士500人から600人が詰めて、交代で外交や貿易業務に当たった「草梁倭館」⁽³⁰⁾があった所

表5 アリラン祭（朝鮮通信使行列）関連韓日国際交流現況（2009年）

月日	行事名	場所	内容
1. 30	朝鮮通信使文化事業会総会	釜山	2008年度の事業決算および2009年度の韓日文化交流事業に関する計画報告。
3. 5～7	振興会釜山市訪問	釜山	朝鮮通信使文化事業会、ペギンセ舞踊団、ペクヤン高校宮中吹打隊に2009年の通信使行列に参加依頼。
4. 11	朝鮮通信使の3使任命式および行列再現	ソウル	朝鮮通信使文化事業会がソウルで主催した通信使の3使任命式と行列に参加。
5. 2～4	2009 朝鮮通信使祭り	釜山	海神祭、通信使の夜、通信使行列参加。
7. 6～8	振興会釜山市訪問	釜山	朝鮮通信使文化事業会、ペギンセ舞踊団、ペクヤン高校宮中吹打隊と通信使行列の事前協議。
7. 18～19	雨森芳洲の外交セミナー交流会	釜山	雨森芳洲の外交セミナーの参加者たちが年に一度開催する交流会で、講演会や遺跡探訪などを実施。
8. 1～2	厳原港祭り（対馬アリラン祭）	対馬	釜山市影島区（5）、蔚山市蔚州郡（6）、朝鮮通信使文化事業会（9）、ペクヤン高校宮中吹打隊（32）、ペギンセ舞踊団（25）、南山民俗遊び（25）の行列再現および舞台公演。
11. 6～19	第2回韓日親善書道大会	釜山	朝鮮通信使行事の一環として書道交流会を開始。長崎県美術協会から40点、釜山書道ビエンナーレから93点出品。

（「対馬釜山事務所」より著者作成）

で、対馬市ではこうした歴史的事実に基づいて対馬釜山事務所の位置を選定し、かつて朝鮮との国際交流を通じて地域の活性化をもたらした対馬藩の姿を取り戻そうと試みているのではないかと思われる。

V 韓国人観光客の動向からみたアリラン祭

1989年の海外旅行の自由化もあって、対馬を訪問する韓国人は確実に増加してきた。2000年から2004年まで8月に入国者数のピークがあるが、これは夏休みの影響が大きいと思われる。さらに2005年以降は年間を通して多くの

韓国人が訪れるようになっている（表6）。

その理由は、第一に2005年から観光目的で日本に来る韓国人に限定してビザが免除されたことによって、海外旅行先として日本が以前より選択されやすい環境になった点である。これによって日本本土だけでなく、韓国に一番近い対馬にも関心が向けられるようになった。第二に、2005年に竹島問題のため韓日関係が悪化すると、韓国では国境沿いの島々に対する関心が高まり、竹島観光を始めとして韓国の歴史を求めて対馬にも多くの人々が足を延ばすようになった点である。これらがきっかけとなって、韓国人の関心を惹きつけやすいアリラン祭や対馬の自然景勝地および韓国関連文化遺跡は、対馬釜山事務所やインターネット、各旅行会社などの宣伝を通じて、これまで以上に広く知られるようになり、その結果、釜山からのみならず、韓国各地から多くの観光客が対馬を訪問するようになった⁽³¹⁾。さらに、2007年には円安によって、気軽に安い値段で対馬を旅行することができたこと⁽³²⁾、また同年が「朝鮮通信使400周年」⁽³³⁾であり、学生の修学旅行と公共機関などの団体観光が大幅に増加したこともある⁽³⁴⁾、増加傾向が続いている。2010年には円高の影響で一時観光客が減少した時期もあったが、2012年には円安の影響もあって再び急増し、年間の韓国人観光客の数は、対馬市全体の人口をはるかに上回るようになっている。

表6 釜山と対馬間の国際航路による韓国人入国者の推移

月 年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計(人)
2000	257	173	409	400	545	466	1,278	2,867	119	476	466	95	7,551
2002	657	102	389	756	1,042	1,320	1,163	2,130	429	1,164	858	499	10,509
2004	1,189	854	2,335	1,237	1,704	1,076	2,347	2,925	949	1,697	2,091	2,548	20,952
2006	2,548	2,623	4,246	3,897	4,030	3,694	3,832	2,540	2,771	3,511	4,212	4,098	42,002
2008	5,584	4,741	6,258	6,753	7,714	7,155	7,664	8,137	3,807	7,804	4,405	2,327	72,349
2010	4,617	3,095	3,305	5,279	5,671	4,953	5,231	6,154	4,025	5,650	6,286	4,288	58,554
2012	8,724	9,801	13,264	15,137	16,505	14,667	12,245	13,460	7,929	14,684	13,868	10,552	150,836

（対馬市観光物産推進本部の資料により著者作成）

現在、対馬市の宿泊施設は韓国人観光客の急増に対応しきれない状態になっている。韓国人観光客の大部分が宿泊する巣原には、10軒のホテルと20軒の民宿があり、一度に800名を収容できる（長崎県対馬市、2007）が、慢性的な不足が続いている。2002年に開業した韓国系の対馬大亜ホテルの関係者は、「開業当初は72部屋でしたが、2005年から宿泊客が急増したので、社員寮を改造して20部屋分を増築しました。しかし客室不足は解消されておらず、毎日ほぼ満室の状態が続いています」⁽³⁵⁾と語っている。こうした事情は日本人の経営するほかの宿泊施設でも同じで、特にアリラン祭の期間は6ヶ月～3ヶ月前に予約で一杯になるという⁽³⁶⁾。

対馬に対する韓国人の関心が増加するなかで、「アリラン祭」は対馬の認知度の向上に寄与している。韓国人観光客を対象に、「対馬について知っている観光地あるいは行事がありますか」と質問したところ⁽³⁷⁾、観光地の場合はその固有名詞をはっきり覚えられていないが、アリラン祭については誰もが「アリラン祭」と回答し、「アリラン祭、アリラン祭と大きく宣伝しているのでそれを見るために無理をして来ました」⁽³⁸⁾という人もいるほどである。また学生の場合は学校の先生を通じて、もっとも多い40～50代の観光客の場合は、マスコミや旅行会社、知人の紹介などを通してアリラン祭を知るようになったと答えている。「アリラン」という韓国人にも親しみのある、覚えやすい名称がその認知度を高めているのではないかと思われる。

韓国人のアリラン祭に対する認知度の上昇は、祭りへの参加形態にも変化を及ぼしている。祭りのプログラムは朝鮮通信使行列と舞台行事に区分できるが、1994年に行列に国書交換式がプログラムに加わり、姉妹都市である釜山市の関係者が公式に招待されるようになった。その構成は正使役（1名）と副使役（1名）、舞踊団（約20名）、吹打隊（約35名）で、合併前は巣原町が、合併後は対馬市が振興会の会員とともに業務を担当している。

2004年までこの公式招待の関係者が唯一の韓国人参加であり、民間の参加者はいなかった⁽³⁹⁾。こうした状況に変化をもたらしたのが対馬釜山事務所の設立である。事務所では民間レベルで祭りの参加を積極的に呼びかけ、それに

呼応して韓国の民間団体の参加が始まった。2005年に大邱（デグ）芸術大学、2006年に全羅南道光州市の「ハンベ民俗芸術団」、2007年には慶尚南道梁山市の「ビヨクゼ国楽芸術団」と釜山市の「釜山－対馬住民交流会」⁽⁴⁰⁾ の女性会員、そして2008年には再び「ハンベ民俗芸術団」が参加しており、規模は大きいとは言えないが民間レベルでの交流が続いている。これらの団体は対馬釜山事務所で祭りに関する情報を得て、韓国文化を日本に伝えたいという自文化に関する強い自負心から、自費でアリラン祭に参加している⁽⁴¹⁾。こうした民間人の活動は、アリラン祭が韓国社会に広く知られるようになった表の一端であると言えるだろう。

アリラン祭は二日間の短い祭りであり、その期間に合わせて韓国人観光客が対馬を訪問することは現実的に難しい面もある。しかし、韓国人の興味を惹きつける祭りのタイトルや朝鮮通信使行列のプログラムは、韓国の潜在的な観光客に対して対馬の観光宣伝を高める有力な要素になっていることは間違いない。したがって、比較的早くからアリラン祭という名称を用いて、韓国をターゲットにした対馬市の地域活性化戦略は、一定の効果を発揮していると評価できるようと思われる。

VII おわりに

本稿ではアリラン祭の歴史的変遷を通して、アリラン祭が韓国との国際交流を活かした地域活性化政策の一環として位置づけられる過程を明らかにし、韓国人観光客の動向を通じて、韓国人がアリラン祭をどのように評価し、それは対馬市の地域活性化の効果にどのように結びつかれているかを分析した。

1980年代後半以降、厳原町（対馬市）は地域活性化政策の一環として、韓国との近接性や歴史的関連性を強調しながら、朝鮮通信使行列の充実やアリラン祭というタイトルを追加することで、韓国人観光客を誘致しようと努力してきた。こうした動きに対して、地域内外の右翼団体や一部の地域住民から不満の声があったが、大きな問題には発展しなかった。しかし、2005年の竹島問題以降アリラン祭の開催をめぐる抗議が強まることで、2007年からアリラン

祭をサブタイトルとして使用し、「厳原港」という地名が再び強調されるようになった。その一方で、行政側と商工業関係者は何とか祭りをアリラン祭として維持させることで、今後も韓国人観光客の誘致を通じた対馬市の地域活性化を目指していることが明らかとなった。

韓国社会においてアリラン祭の認知度は高まっており、祭りの存在は韓国人が対馬に关心を寄せるひとつのきっかけとなっている。さらに2005年以降の対馬を訪問する韓国人観光客の急増に伴って、「アリラン」という韓国人に親しみのある名前を掲げたこの祭りは、より多くの人々に知られるようになった。以上、旧厳原町時代から長年に及ぶアリラン祭を活かした地域活性化の試みは、一定の効果を生みつつあると考えられる。

ところが、2013年の祭りでは「アリラン」が祭名から削除された。2012年10月に対馬市の寺社にあった仏像が韓国の窃盗グループによって盗まれ、まだ返還されていない問題に対し、抗議の一環としてなくしたのである。また、メインイベントである朝鮮通信使行列も同年には中止となった。行列の代わりに地元住民による仮装パレードが行われた。だが、この問題は盗まれた仏像の未変換をめぐる抗議の一環として行わられたもので、一部の地元住民からはインパクトのある祭りを失ってしまったとか、経営状態を考えると韓国人観光客を無視できないという本音を漏らしているのが現状である⁽⁴²⁾。対馬釜山事務所も以前と変わらず、アリラン祭を前面に立てて、韓国社会における対馬市の観光宣伝を行っており、仏像問題の解決次第、この祭りがまたどういう形に変遷するか今後の検討課題にしたい。

本稿は2009年に九州大学に提出した学位論文の一部を加筆・補足したものである。本稿の作成にあたり、高木彰彦先生や遠城明雄先生をはじめ、地理学研究室の皆様に貴重な助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

注

- (1) 株式会社大亞高速海運は1983年6月に設立された旅客船会社で、1999年から釜山と対馬を結ぶ高速船を運行しており、対馬では韓国人の出入国手続きや観光バス運行を担当する

- 「㈱JAPAN大亜」や「対馬大亜ホテル」を経営している（㈱大亜高速海運）。
- (2) 対馬は1960年代半ばまで韓国とバーター貿易を行っていた。そのため現在のCIQ（税関、入管、検疫）に該当する施設が設けられ、韓国から直接対馬に行くことができた。しかし、1965年の国交正常化以降、韓国と日本本土との貿易が中心となり、対馬の重要性は段々無くなった。それで、1999年6月までの時期に韓国人が対馬を訪問しようとするれば、まず福岡に来て入国審査を受けてから対馬に行かなければならなかつた。その理由は対馬にはCIQの施設がなかったからである。1999年7月に国際航路が開かれると、CIQが厳原と比田勝に設置され、以前のように韓国から対馬に直接行けるようになった（対馬市観光物産推進本部での聞き取り調査による）。
- (3) 「過疎地域対策緊急措置法」とは1970年に制定された法律で、同法の指定を受けた自治体は過疎債による特別措置がなされ、償還の七割を国が地方交付税として肩代わりしてきた。同法は以後10年ごとに作り替えられてきており、1980年に「過疎地域振興特別措置法」、1990年に「過疎地域活性化特別措置法」、2000年には「過疎地域自立促進特別措置法」が定められた。
- (4) 6町とは、厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町のことと、この6町が2004年3月に合併して対馬市が誕生した。
- (5) 対馬市役所建設課提供の資料による。
- (6) 合併特例債とは、市町村建設計画に基づいて行う一定の事業に要する経費や、合併後の市町村が行う地域振興のための基金の積み立てに要する経費について起こそができる地方債のことである。対象事業にかかる経費の95%までの充当、元利償還金の70%を後年度普通交付税での措置・国や県の補助事業への充当などの優先措置がある。また合併に伴う基金造成に対する措置もある。期間はどちらも合併年度およびそれに続く10ヶ年度で、対馬市の合併特例債は2004年からの10年間で219億9,000万となっている（対馬市役所総務企画部秘書課、2004）。
- (7) 「ちんぐ」とは韓国の言葉で友だちを意味する。特にアリラン祭や対馬ちんぐ音楽祭は韓国からの観光客を意識して開催されている祭りである。
- (8) 2009年3月9～11日、対馬市役所観光交流課と商工会への聞き取り調査による。
- (9) この委員会は、韓国の歴史学者らが先祖の足跡を求めるための事業の一環として対馬側に要請して設置されたもので、韓国側では元韓國文化財委員会委員長であった黃壽永氏が、対馬側では郷土学者である永留久恵氏がそれぞれ代表委員として活動している。
- (10) 対馬釜山事務所については第4章を参照。
- (11) 青年部の会員は、親が地元で主に商工業に携わっている20代から40代までの自営業者30人程度で構成されている。
- (12) 2007年8月3日、2008年8月2日、2009年3月10日、商工会会長へのインタビューによる。
- (13) 2009年3月9日、対馬市役所観光物産推進本部提供の資料と聞き取り調査による。
- (14) 対馬は朝鮮時代、李氏王朝から徳川幕府に派遣した朝鮮通信使一行が最初に到着して、対馬藩主の本拠地である府中（現在の厳原町）で二、三週程度泊まりながら、さまざま

な国際交流が行われた、朝鮮通信使のゆかりの地であり、祭りではこうした歴史的事実に基づいて朝鮮通信使行列を再現している。

- (15) 2009年3月10日、商工会提供的プログラム（1989年～2008年）と商工会会長への聞き取り調査による。
- (16) 振興会の発足当時は、庄野氏を中心に主に地元で自営業に携わっている若干名の人々が活動していたが、1990年代以降になると自営業者を始め民間企業や公務員など参加者も増え、35人程度が会員として活動している（2009年3月9日、対馬市役所観光物産推進本部提供的内部資料による）。
- (17) 前掲（12）。
- (18) 「対馬の再発見」『東亜日報』2004年7月22日記事。
- (19) 役員会は商工会職員とかつて青年部で活動していく引退した10人程度の人々で構成されており、主な役割は祭りに関する意思決定である。
- (20) 2007年現在、市から朝鮮通信使行列に340万円、アリラン祭に県と市からそれぞれ350万円ずつ補助金が支給されている（2009年3月9日、対馬市役所観光物産推進本部への聞き取り調査による）。
- (21) 2007年8月4日、商工会会長と地元住民へのインタビューによる。
- (22) 前掲（12）、対馬市役所提供的資料による。
- (23) 2008年8月2日、青年部会長へのインタビューによる。
- (24) 実際、対馬で国書交換が行われたのは、12回の朝鮮通信使の派遣のうち、ただ1回だけである。朝鮮通信使への接待に対する経済的負担や財政難などの理由で、最後の通信使になる1811年には対馬で「易地通信（易地聘礼）」の形で行われた（李、1991；辛、1999）。現在は行列の後にひとつの舞台プログラムとして、この国書交換式が行われている。
- (25) 2回に及ぶ朝鮮通信使行列への参加要請は、徳川幕府時代の形式、いわゆる幕府の命令で対馬藩が「大慶參判使（閔白承襲告慶差倭）」を朝鮮に派遣して、その次に正式に招聘する「修聘參判使（通信使請來差倭）」を送っていた（文、2007）、かつての形式を取って行われているのではないかと思われる。
- (26) 2008年8月2日、振興会会長へのインタビューによる。
- (27) 2005年4月に県境を越えて九州が一体となった観光PRを行うために発足させた組織で、国内の大都市や東アジア地域など、国内外の重要な市場をターゲットとした観光客の誘致活動を行っている。各県から1名ずつ7人、民間から16人の職員で構成されて、本部は福岡市天神1丁目においてある（上野、2008；九州経済調査協会、2003：2008）。
- (28) 「対馬釜山事務所」提供的資料による。
- (29) 朝鮮通信使を含めた韓国との国際交流支援活動は、2003年オープン当時は31件、翌年は30件であったが、2005年からは大体50から60件の支援活動を行ってきてている（対馬釜山事務所）。
- (30) 以前の豆毛浦倭館（現在釜山市東区役所がある所）が韓日両国の外交や貿易の拡大のた

めに狭くなり、1675年から丸3年の年月をかけて1678年に完成した。朝鮮建て、日本建て両様の建物に日本と朝鮮の大工や人夫が共同で作業に当たって作られた。広さは約10万坪で、出島の約25倍になる（嶋村、2009；ジャン、2011）。

- (31) 「対馬－近い、安い」『世界一報』2006年7月27日記事、および韓国での旅行会社への聞き取り調査による。
- (32) 2007年の旅行会社のパッケージ商品を調査した結果、普通日帰りの場合は11万ウォン、1泊2日の場合は20万ウォン、2泊3日は30万ウォン程度である。
- (33) ソンは朝鮮前期（任辰・丁酉倭亂（文祿・慶長の役、1592～1598）を境に、朝鮮前期と後期に区分する）にも朝鮮通信使の派遣が行われており、朝鮮後期の1607年を基準にして、2007年の朝鮮通信使派遣400周年を記念するのは間違いだと主張している（ジョ・ジョン編、2008）。名称だけを注目すれば確かにそうであるが、侵略戦争の後に開始され、約200年間両国の間で平和的な善隣友好の交流が展開されたことに、多くの研究者が朝鮮後期の朝鮮通信使に意味を付与しているのではないかと思われる。
- (34) 「対馬の観光客」『文化日報』2007年5月23日記事。
- (35) 2007年7月24日、対馬大亜ホテルの主任であるホン氏へのインタビューによる。
- (36) 2007年8月5日、2008年8月3日、2009年3月10日、厳原所在のホテルでの聞き取り調査による。
- (37) 2007年8月、2008年8月、2009年3月に厳原町を訪問した韓国人観光客へのインタビューによる。
- (38) 40～50代の韓国人観光客へのインタビューによる。
- (39) 2007年の場合、陸上自衛隊第4音楽隊を先頭にして、武士の姿をした人々と、韓日両国の伝統衣装を着た行列がその後に続いた。正使役は白宣基（釜山広域市議会議員）、副使役に千判祥（釜山広域市議会議員）、宗対馬守役に江口正昭（長崎県対馬地方局長）、雨森芳洲役に辰田幸敏（対馬高等学校長）が扮し、その後をペクヤン高校宮中吹打隊（33名）、ペギンセ舞踊団（21名）などが参加した。地元からは対馬高校吹奏楽部（20名）、対馬高校国際文化交流コース（13名）、韓国服姿の多くの女性など、合計400の人が参加した。
- (40) 2007年6月に発足した「釜山－対馬住民交流会」は、釜山市沙下区多大洞の日本語の教室に通っている釜山市民と厳原町で韓国語講座に参加している対馬市民を中心とした民間レベルの国際交流団体である。
- (41) 2007年8月4～5日の「ビヨクゼ国楽芸術団」と「釜山－対馬住民交流会」、2008年8月2日の「ハンベ民俗芸術団」へのインタビューによる。
- (42) 「日韓行事を見つめ直す機会」『長崎新聞』2013年5月20日記事、「国境の島・対馬をゆく：それでも観光、韓国人だのみ」『産経ニュース』2013年3月25日記事。

参考文献

安藤直子 2002.「地方都市における観光化に伴う「祭礼群」の再編成—盛岡市の六つの祭礼

- の意味付けをめぐる葛藤とその解消』『日本民俗学』231、1－31.
- 李元植 1991.『朝鮮通信使』民音社.
- 厳原町 2004.『町報いづはら縮刷版』第二巻.
- イ・フン 2005.『対馬、歴史に沿って歩く』歴史空間. (이 훈 2005.『대마도 역사를 따라 걷다』 역사공간.)
- 上野真也 2008.『地方分権と道州制』成文堂.
- 九州経済調査協会 2003.『2003年版九州経済白書：新しい観光・集客戦略』.
- 九州経済調査協会 2008.『2008年版九州経済白書：地域浮沈の分水嶺～拡大する地域格差と九州経済』.
- 嶋村初吉 2009.『朝鮮通信使の光と影』梓書院.
- 嶋村初吉編著 2004.『対馬新考：日韓交流「宝の島」を開く』梓書院.
- 辛基秀 1999.『朝鮮通信使：人の往来、文化の交流』明石書店.
- 申英根 2009.『韓国と日本における「文化」を利用した地域活性化政策に関する研究』九州大学博士学位論文.
- ジャン・スンスン 2011.「朝鮮後期の倭館の成立と倭館政策」『人文科学研究』31、197－226. (장 순순 2011.「조선후기 왜관의 성립과 왜관정책」『인문과학연구』31、197－226.)
- ジョ・ギュイク、ジョン・ヨンムン編 2008.『朝鮮通信使使行録研究叢書－5外交』学古房. (조 규익·정 영문 역음 2008.『조선통신사 사행록 연구총서－5 외교』학고방.)
- ジョン・ハミ 2006.「日本のメディアイベントとしての朝鮮通信使研究」『日本学報』69、553－569. (정 하미 2006.「일본의 미디어 이벤트로서의 조선통신사 연구」『일본학보』69、553－569.)
- 対馬観光物産協会 2008.『つしま百科』.
- 対馬市『対馬市の位置』『人口一国勢調査』、<http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/>（最終閲覧日：2013年10月23日）
- 対馬市役所総務企画部秘書課 2004.『対馬市誕生までのあゆみ』.
- 対馬釜山事務所『交流事業』、<http://www.tsushima-busan.or.kr/>（最終閲覧日：2013年9月19日）
- (株)大亞高速海運『会社案内』『運航案内』、<http://www.daea.com/>（最終閲覧日：2013年10月24日）(대아고속해운『회사안내』『운항안내』、<http://www.daea.com> (최종열람일: 2013년 10 월 24 일))
- 長崎県対馬市 2007.『対馬ガイドブック』.
- 長崎新聞社 1984.『長崎県大百科事典』.
- 文慶喆 2007.「「朝鮮通信使」と日韓交流400年」『総合政策論集』6 (1)、55－65.
- ユ・ゾンヒヨン 2008.『対馬歴史文化紀行』華山文化. (유 종현 2008.『대마도 역사문화 기행』화산문화.)
- 廖赤陽・王 維 2004.「ローカル・イニシアティブにおける伝統の創造—長崎ランタン・フェ

- スティバル（春節祭）とニュー・エスニシティー』『東洋文化研究所紀要』146、45－68.
- Mitchell, D. 2000 : *Cultural geography: A critical introduction*. Blackwell.
- Waterman, S. 1997 : Place, culture and identity: Summer music in Upper Galilee,
Transactions of the Institute of British Geographers, 23:253-267.
- Waterman, S. 1998 : Carnival for elites? : The cultural politics of arts festivals, *Progress in Human Geography*, 22 (1) : 54-74.